

2017年夏 IN 福岡県

四県(佐賀・福岡・長崎・熊本)サッカー交流会報告書

子ども達の成長

熊本県サッカー協会 キッズ委員会 委員長 武田昭二

九州隣県交流会へ参加の皆さん、福岡県宮若市“西鞍の丘運動公園”での交流会はいかがだったでしょうか？ U-9の参加者の中には、お父さんお母さん達から離れて一夜を過ごすのが初めての人もいたかと思います。サッカーや食事、ミーティングなど友だちと過ごした二日間でいろんなことを学んだことかと思えます。コーチの話を聞くこと、自分で考えること、友だちと行動することなどお父さんお母さん達に話せましたか？

キッズエリート活動で大切なこと「友だち作り、考えて行動する、感謝の気持ちを持つ」ができるよう今後も日々の生活から行動してみてください。皆さんの二年間での成長を期待しています。



「日常を変える」、JFA から発信された言葉です。皆の日常は、所属チーム、学校、そして家庭です。今回の隣県交流は、皆にとって非日常でした。日常、なんとなく出来ている、OKにしている部分が、実は「基準」に達していない、保護者、コーチ、チームメイトがいないと出来ない事に気づけたのではないのでしょうか。また同時に、しっかり出来ている仲間の存在も確認できたと思います。

キッズエリートプロジェクトだけでは、日常を変えることはできません。月1回の定期トレーニング、年2回の隣県交流を通して、「基準」がどこにあるのか、自分はどうかを確認してください。そして足りない部分は、日常を変え、出来ている部分はさらに伸ばしていくてください。

コーチ 松下涼太



隣県交流会では、選手が自分で気づきチャレンジできるようにサポートしました。ピッチ外は、準備や食事など、次の事を考えて行動に移せるようになりました。

ピッチ内は、U-10は佐賀と長崎のU-11と対戦し、体格と技術で劣勢になりました。しかし、仲間と助け合い、果敢に立ち向かう選手が増えたと思います。今回の経験を活かして家・学校・チームで自分から行動し、更に成長した姿を次回の活動で見せてくれる事を願っています。

コーチ 榎本大



今回 U-9 は、はじめての隣県交流参加で、U-10 が積極的に行動し、引っ張っていたと思います。特にグラウンド以外において、挨拶、整頓、集合、宿泊施設内での行動など、お手本になる行動ができていました。気づきや積極性は普段からの生活態度に表れます。各自が自分で考え自分で動き失敗を恐れず恥ずかしながらにチャレンジすることを全員理解し、次の行動につなげる事が、成長につながると思います。最後に、保護者の皆様、これからもお子様の『ベストサポーター』として良き理解者として見守っていただきたいと思えます。

コーチ 小原英雄



3年生は最初の交流会になりましたが、各選手個性があり、ピッチ内外で意欲的な選手もいたり、時に自分の置かれている状況を感じてない選手もいるなど日常から変えていくことを今後、期待したいです。4年生は3回目の参加選手もいて落ち着いて行動できており、まわりをサポートする姿もあって頼もしく感じました。サッカー選手である前に一人の人間としてさらなる成長を今後も期待したいです。

今回の隣県交流会を通して、参加した選手の皆さんは更なる成長への一歩を踏み出したのではないのでしょうか。オン・ザ・ピッチ、オフ・ザ・ピッチの取り組みや気づきを今後のトレーニング、サッカー人生に活かしてください。今回、学んだことを継続していきましょう。

コーチ 稲田将吾



「オン・ザ・ピッチ」「オフ・ザ・ピッチ」の基準をこの短い合宿の中で選手たちに『感じて』『考えて』『行動して』ステップアップしてほしいという思いで隣県交流会に参加させていただきました。

選手たちは、熊本FAからの『基準』に対して個々の現在地を確認することができたと思います。今回の自分に一喜一憂することなく、まず今できることを出し惜しみせず表現することで基準に一步步近づいていってほしいと感じました。

コーチ 山下稔

オン・ザ・ピッチ&オフ・ザ・ピッチ 9月2日(土)



出発式@運動公園・カベッサ
一泊二日の交流会に向けて、保護者に出発の挨拶。各会場で1名、代表して挨拶してもらいました。



福岡に到着

この後の予定と施設を確認しました。まずは自分の事、次に仲間、そしてチーム全体のことを考えて行動できました。



開会式

熊本、佐賀、長崎、福岡から150名を超える選手が集まりました。今回出会った仲間たちは、サッカーを続けければ、またどこかで出会います。



交流をテーマに、W-UP と試合

W-UP はアビスパ福岡、ギラヴァンツ北九州のコーチが担当してくれました。その後、選手たちで毎試合違うメンバーでチームを組んで試合を行いました。積極的に他県の友達と交流できましたか。



食事について

コーチから食事について話を聞き、夕食を食べました。みんなはたくさんさんのエネルギーが必要です家庭、学校でもしっかりと食べていますか。



グループワーク

各グループで次の2つの事について話をしました。一人一役、助け合いながら最後は、グループの意見を発表しました。

- ①隣県交流会での目標
- ②目標達成のため、これからの時間をどう過ごすか

うまく意見を出せた選手もいれば、自分の考えを伝えきれなかった選手もいたようです。

サッカーも同じですが、失敗することはチャレンジをした証拠です。今回の経験を次に生かせるように、これからの日常を過ごしてください。



オン・ザ・ピッチ&オフ・ザ・ピッチ 9月3日(日)



朝の散歩・体操

朝食の前に散歩と体操を行いました。朝の集合には全員が揃いましたが、寝癖が付いている選手が数名いました。



朝食

夕食に比べると時間が限られており、量を食することが難しかったです。しかし、これから試合を行うことを考えると、活動できるだけのエネルギーが必要です。まずは、量をしっかりと食べられるようになってください。



お世話になった宿にお礼

代表で1名挨拶をしてくださいました。食事の内容など、とても丁寧に対応いただきました。



交流試合

各カテゴリー、同年代と一つ上の年代、それぞれとの試合を経験しました。やはり一つ上の年代には、多くの点で敵わない所がありましたが、通用する部分もありました。各カテゴリー、定期トレーニングで取り組んでいる部分が出せたでしょうか。次の隣県交流会(2月)まで、5ヶ月、どのように過ごすのかぜひもう一度考えてみてください。※熊本県サッカー協会の定期トレーニングの案内に夢ノートのデータを掲載しています。ぜひご家庭でも活用ください。



解散式@運動公園・カベッサ

2日間の交流会を終了しました。最後は、各会場で1名、代表して挨拶をしてもらいました。



テクニック

「日本の課題」 ※世界との比較

- ・ボールフィーリングはすぐれているが、プレッシャー下、動きながらの発揮はまだまだ追求が必要
- ・キックの質には大きな課題、蹴り込む量が不足

「テクニックとは」

ボールフィーリング、ボール扱いを、状況に応じて判断し適切に発揮すること



その前提として、キッズ年代で「ボールを思い通りに扱える」ようになっていることが重要



これからの活動

Move (ムーブ) 動き関わり続ける
Organize (オーガナイズ) 自立
Creative (クリエイティブ) 創造性
Challenge (チャレンジ) 果敢に(あきらめない)
Open mind (オープンマインド) 向上心・学ぶ姿勢
Smile (スマイル) 笑顔

熊本 FA 育成ビジョン

「MOCCOS フットボーラーの育成」

2014年熊本 FA 技術委員会にて育成ビジョンを決定しました。

* 詳細は熊本 FA ホームページからご覧いただけます

【U-10】

月1回の定期トレーニングを行っていきます。2月は熊本県で隣県交流会を予定。U-10 カテゴリーは、最後の活動になる予定です。

【U-9】

月1回の定期トレーニングを行っていきます。2月は熊本県で隣県交流会を予定。来年4月からはカテゴリーも上がり、U-10として活動します。3月からは、新たなU-9参加者が入ってくる予定です。

◎県トレセンについて

トレセン制度は、数ある育成システムのうちの一つです。そこで選出された、されなかったからと言って、将来を保証されるものではありませんし、選手として道が閉ざされるわけでもありません。

キッズエリートプロジェクト出身の選手たちには、どんな環境でも自分自身を成長させられるような選手になってくれればと期待します。

コーチ、スタッフはいつまでも皆を応援しています。